

Virgilijus Čepaitisのプロフィール

畑 中 幸 子

Virgilijus Čepaitis氏はリトアニア独立運動の先鋒で、サユディス運動の事務局長 (Executive Secretary)として活躍した。

チェパイティス氏は1937年生まれ、モスクワの文学研究所でM.A.と同等の学位をえた。翻訳家の道を選ばれたチェパイティス氏は英語からリトアニア語へ、リトアニア語からロシア語へ、ポーランド語からロシア語へと文学、戯曲、小説など58冊に及ぶ翻訳をおこなっている。1978年以來、リトアニア作家連盟のメンバーであり、1988年よりリトアニア改革運動サユディスの発起グループのメンバーとして社会的・政治的活動に入った。1990年から1992年にかけて国会議員となり市民権及び少数民族問題委員会の委員長をつとめた。政界から身を引いてからは学術・教育関係の出版社をリトアニア系アメリカ人の支援の下に創設した。しかし、民主派の政治家たちのチェパイティス氏への信頼は厚く、彼らのアドバイザーとしても多忙な日々を送られている。サユディスでの活動については氏の論文にくわしく述べられているので、ここでは省略する。

1998年2月23日、本学国際地域研究所で招聘し、“Revival of Lithuania”というテーマで講演を願った。その後、研究所メンバー、学部長、吉田教授らと懇談会をもった。バルト三国の中でも一番早く独立を主張したりトアニア共和国について詳細を独立の志士から直接聴講するという得がたい機会であった。

チェパイティス氏の本学への招聘を知った北海道大学スラブ研究センターからの依頼で2月19日・20日の外国人研究セミナーに参加。イスラエル、

ウクライナ、ロシアの第一線で活躍している研究者と共に発表を行った。筆者は特にロシア科学アカデミーの研究者たちのチェバイティス氏の発表に対する反応に興味をもたされたが、彼らは沈黙を通した。

本研究所の紀要「国際研究」第15号に特別に原稿を用意して下さったチェバイティス氏に感謝したい。